

令和7年度 江戸川区立篠崎第五小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	思いやりのある子 よく学びよく考える子 心も体もつよい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	夢と勇気と笑顔にあふれる学校 学力と体力が向上する児童 正しく丁寧な言葉遣いをする 「分かる授業」を追求する 心が通う明るく温かく元気な太陽の挨拶をする 「言ったことは最後まで」徹底する 教職員
前年度までの本校の現状	成果	課題	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着を目指し、一人一台端末を活用したり、家庭学習の習慣化を図ったりすることが課題である。また、授業改善を図り、児童のできる・わかる授業を目指す。 本校の伝統である裏庭を活用した学習を今後も大切にし、「かかわり、共育・協働のある学校づくり」を継続的に行っていく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・授業スタイル「篠五授業スタンダード」の実施	・毎学期確認し、教員内部評価の肯定回答9割	85%	85%	B	・どの学級も授業スタンダードに基づき授業が行われており、教員向け中間評価では「スタンダードを実践している」との回答は94%であった。	B	・子供たちが学習に積極的に取り組んでいる姿が見られることが大変よい。基礎学力の向上に今後も努めていってほしい。	B	・意欲的に学習に取り組む児童の姿が多く見られた。教員向けの2学期末評価では、「スタンダードを実践している」との回答は100%であった。	A	・意欲的に学習に取り組む子供たちの姿、タブレットを活用した授業が見られた。今後も児童の学力向上のために努めていってほしい。	・教員向けの2学期末評価では「確かな学力が向上している」との回答は64%と、思考力等の学力の向上が課題である。
		・学校だよりや「江戸川っ子study week!」等で家庭学習習慣について啓発	・家庭学習時間（学年×10分）の実施率8割	80%	80%	B	・6月に1回目のstudy week!を実施した。児童の家庭学習の様子を認める声かけを保護者をお願いしている。	B	・家庭との連携はとても大切である。学校での取組を家庭でも実践できるように啓発していってほしい。	B	・毎学期study week!を実施したが、児童アンケートでは「家庭学習をしている」と答えた児童は65%だった。	B	・家庭と連携を図り、家庭学習の習慣を身に付けさせられるとよい。	・一人1台端末を活用したり個に応じた課題を出したりして学習習慣を身に付けさせていく。
	○読書科の更なる充実	・学校図書館を利用した「問題の発見・解決、情報の処理、まとめ・表現する」調べ学習の実施	・2年生以上において毎学期実施	80%	80%	B	・図書館支援員と連携して調べ学習用の図書を用意したり、読書科の授業を学校公開で保護者に見ていただいたりして、充実に努めた。	B	・蔵書システムを活用して調べ学習の特に情報収集に役立ててほしい。 ・区の施設をたくさん活用できるとよい。	B	・2年生以上の学年において、学期に1回以上調べ学習を実施した。読書ノートや蔵書システムを活用し、調べ学習の図書探しに生かされた。	B	・たくさんの情報が溢れる社会の中で、情報の取捨選択は大切な力である。図書とインターネットのそれぞれのよさを生かしてほしい。	・探究的な学習について、教員同士で学びを深めたり、学校図書館司書に研修を行ってもらったりする。
体力の向上	○体力向上のための取り組みの実施・充実	・なわとびチャレンジウィーク年3回、持久走週間（11～12月）の実施	・児童アンケート「休み時間、校庭で遊びや運動ができた」の肯定回答9割	85%	90%	B	・6月に1回目のなわとびチャレンジウィークを実施した。たてわり班内で教え合ったりほめたりする姿が見られた。	B	・元気よく遊んでいる姿や運動に取り組んでいる姿が見られる。今後も継続してほしい。	A	・94%の児童が「すすんで運動できた」で回答した。縄跳びや持久走、休み時間の外遊びの奨励等の成果であると考え。	A	・休み時間の外遊びを大切にすることが体力の向上につながっていることが分かった。今後も期待する。	・外遊びを推奨し、運動する習慣を身に付けさせる。
		・体育科の授業改善の推進	・体育の授業に関する研修会年1回、研究授業年6回の実施	85%	85%	B	・1学期に研修会1回、研究授業2回を実施した。講師の先生の指導のもと、授業改善に取り組んでいるところである。	B	・児童が楽しみながら運動に取り組み、体力向上や生涯を通じた運動習慣につなげていってほしい。	B	・研修1回、研究授業5回を実施した。授業改善が図られ、児童の実態に合った学習を展開することができた。	B	・安全に十分配慮し、児童が楽しく取り組める学習を工夫していってほしい。	・児童がめあてをもって運動に取り組めるように体育の授業をさらに工夫していく。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○特別支援教育の推進 ○副籍交流の実施・充実	・巡回指導教員を中心とした研修会、授業の実施 ・特別支援教育コーディネーターを2名配置し、支援体制を整える。	・年2回実施 ・校内委員会の毎月実施	80%	80%	B	・校内委員会の巡回指導教員の参加や連絡ファイルの活用を通し、巡回指導教員との連携を図り、一人一人の児童に寄り添った支援を行っている。	B	・様々な子がいるが、どの子も生き生きと生活している様子が見られる。子供たちにとって安心できる学校をつくってほしい。	B	・巡回指導教員との連携を密にできた。3学期に特別支援教育に関する研修を教員向けに実施し、個に応じた支援について学びを深められた。	B	・特別支援に関する教育を推進し、一人一人の学びをしっかり保障してほしい。	・今後も巡回指導教員と連携を行えるようにしていく。
		・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・各学期2回以上の実施	85%	85%	B	・鹿本学園と連携し年間指導計画を作成した。また、交流学習も進めており、1学期は3回実施することができた。	B	・どの子も地域で育つという点で交流学習は大切な土台となる。今後も組織的な対応に期待している。	B	・年間を通して計画的に直接交流を実施することができた。子供たち同士のかかわりが生まれた。	B	・「地域の一員」としてどの子供たちも大切に、子供たち同士のかかわりをつくる教育の継続を望む。	・個に応じた支援と共にUDLを取り入れた学習を展開し、どの児童も分かる学習を目指していく。
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成 ○いじめ・不登校の未然防止	・たてわり活動、全校校外活動などかかわり合いのある活動の充実	・児童アンケート「思いやり」「良好な友達関係」の肯定回答9割	85%	90%	B	・毎月1回異学年集団でのたてわり活動を実施している。6年生を中心に楽しく交流する児童の姿が見られる。	A	・異学年での交流が充実し、6年生を中心に子供たち同士のかかわりが生まれていることは大変よい。	A	・児童アンケートでは、思いやりに関する肯定回答が94%であった。高学年がよきリーダーとなって活動していた。	A	・お互いを尊重する、温かい土壌づくりができていていると感じる。今後も居場所づくりをしっかりと行ってほしい。	・学級、学年、全校とかかわり合いが広がるよう活動の工夫をさらに行っていく。
		・いじめ対策基本方針に基づいた児童の健全育成といじめの防止、早期発見や早期対応の強化	・いじめに関する授業を各学級学期1回以上実施	85%	90%	B	・6月に各学級でいじめに関する授業を実施した。日常の児童観察に努め、早期発見・早期対応を実践している。	A	・不登校児童がいないこと、いじめの早期発見・早期解決は素晴らしいことであり、今後も努めてほしい。	B	・いじめ対策委員会を開催し、初期対応に、また、アンケートを年間3回実施し、いじめの早期発見に努めた。	A	・一つ一つの事案に対して丁寧に学校全体で対応し、解決していることが分かった。	・一人一人の児童が安心して学校生活を送れるように様々な方法でいじめの早期発見に努める。
		・児童一人一人の実態に合わせた生活指導の充実 ・SC、SSWとの連携強化	・児童の情報共有を生活指導夕会で週1回実施	85%	85%	B	・毎週1回、生活指導夕会を実施している。 ・SC、SSWと情報共有を図り支援につなげている。	B	・今後もどの子も楽しく学校に来られるように児童理解と支援に努めてほしい。	B	・生活指導夕会での情報共有をもとに指導の方向性の一致を図った。SCやSSWと連携し、児童の支援に当たることができた。	B	・学校だけではなく、いろいろな機関と協力することが大切である。今後も地域でできることに協力していく。	・校内での報告・連絡・相談、SC、SSWとの連携を図り、情報共有に努める。

学校(園)の地域社会に開かれた実現	○学校(園)ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・学校だより・学年だより等を月1回、「できごと」を週3回以上更新	80%	80%	B	・毎月始めに学校だより・学年だより等を、週3回以上「できごと」を更新し、教育活動の様子を保護者や地域の方に発信することができた。	B	・学校だよりやホームページから学校の様子がよく伝わってくる。今後も子供たちの様子を積極的に伝えていってもらいたい。	C	・各学年の教育活動の様子についての発信は、昨年度より減少してしまった。より多く伝えることができればよかった。	B	・ホームページは地域の間人が学校の様子を知れる大切なツールであるので、今後も様々な視点で学校のことを知らせてほしい。	・校務分掌でホームページ担当の役割を明確にし、確実な更新を目指す。
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、教職員へのアンケート調査の実施 ・学校評議委員会の開催	・児童年1回、保護者年7回、教職員年2回実施 ・年3回実施	80%	80%	B	・体育発表会や学校公開で保護者アンケートを実施した。いただいた意見を次年度の教育活動計画に生かすようにしている。	B	・学校評議委員会では、子供たちの様子について学校と情報交換できている。地域としてできることを応援していく。	B	・学校評議員の方や保護者の方からいただいた意見を学校で検討する機会を設け、次の活動に生かすようにした。	B	・客観的な評価は大切である。結果を効果的に教育活動に生かしてほしい。	・今年度いただいた意見を来年度の教育活動に生かし、よりよいものにしていく。
	○学校公開の実施・充実	・学校公開の実施、ホームページでの周知	・年4回	80%	80%	B	・6月に学校公開を実施した。今後は、10月、11月、1月に学校公開を実施する予定である。	B	・学校公開では、子供たちが落ち着いて学習に取り組む様子や意欲的に取り組む様子が伝わってきた。	B	・年間4回の学校公開を実施し、通常の授業だけでなく、道徳地区公開講座などを行い、多くの方の参観をいただいた。	B	・今後もできる限り参観していきたい。地域でも学校の様子を見たいという声があるので、お願いしたい。	・児童のがんばっている様子がしっかり伝わるように、計画的に公開内容を検討していく。
教育の特色ある展開	○田んぼの学校、篠竹の学校、農園のある学校としての活動の充実	・1～4年生は農園での野菜作り、5年生は稲作、6年生は苺掘りを行う。	・農園活動についての児童、保護者の肯定回答8割	85%	90%	B	・PTAや学校応援団の協力を得て、順調に活動を行っている。農園が子供たちにとってよき学びの場となっている。	A	・農園は篠五小の大きな特長なので、今後もいろいろな方の協力を得て大切にしていってもらいたい。	B	・農園に関する肯定回答は、児童77%、保護者96%であった。地域や保護者の方の協力のもと計画通り活動を行えた。	A	・学校のシンボルとして、今後も大事にしていってもらいたい。地域や保護者との協力体制もよい。	・今年度の反省を生かして年間指導計画を見直し、来年度も計画的に進めていく。
	○規律が保たれ、すべての児童が安全に安心して過ごせる学校づくり	・「静・整・動」(話を聞く・時間を守る、掃除を大切にす・挨拶をする)に重点的に取り組む。	・児童アンケート「『静・整・動』を意識して生活できた」の肯定回答8割	80%	80%	B	・7月の教員内評価では「整(時間・掃除)」の肯定回答が低かった。今後の課題として指導を充実させていく。	B	・子供たちは元気なあいさつができています。今後もあいさつを柱に子供たちの教育にあたってもらいたい。	B	・そうじの取組への肯定的回答が70%と低めであった。六郷清掃のよさを感じられる工夫が必要である。	B	・地域でも自分からあいさつをする児童が増えている。地域の大人が率先垂範し、あいさつをかわしていきたい。	・無言清掃のよさを感じられる活動を工夫し、掃除に関して児童の意識が高まるようしていく。